

次代を つくる



京都大学国際融合
創造センター教授
澤田芳郎さん

産学連携には大学と企業がリソース(資源)を出し合っている(共同研究)、大学が特許を企業に実施許諾する(技術移転)、発明者の教員が民間資本を得て起業し、技術の活用を自ら促進する(大学発ベンチャー)などがあります。そのさまざまな局面で世話役になるのが、我々産学連携コーディネーターです。

産学連携コーディネーターの基本的な業務は、技術相談対応です。まず企業の話じっくりお聞きし、その沿革や業界事情を踏まえてデータベース検索やクチコミで適任の教員を探し、面談を設定して同席します。慣れない企業の場合は、企業に代わって教員に説明し、質問。逆に教員に代わって企業に質問し、盛り上げたところで研究計画の立案を支援し、特許関係

産学連携コーディネーター

の諸要件も折り込んで研究契約書を作成。あるいは教員の兼業によるコンサルティングに持ち込みます。コーディネーターには技術を機能のレベルで把握して、教員や企業に打ち返すスキルが必要です。理系の学部卒業程度の知識を持つことは望ましいのですが、適性があれば文系出身者にも不可能ではなく、逆に理

系出身なら必ず出来るというわけでもありません。世界規模の競争の中で産業界は大学の知的力量を必要とするようになり、国立大学も国だけに財政を依存できなくなりました。その中で産学連携は確かに注目されますが、過剰な期待は禁物です。コーディネーターは国立大学法人化等の法制度改革も念頭に置きながら産学双方に実りのある産学連携を目指しています。

さわだ・よしろう 1954年大阪府生まれ。京都大学農学部卒、教育学研究科修士課程修了。未来工学研究所研究員、京都大学助手、愛知教育大学助教授、教授を経て、01年京都大学国際融合創造センター教授。

題字は堀場雅夫・堀場製作所最高顧問